

大学の世界展開力強化事業 取組概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

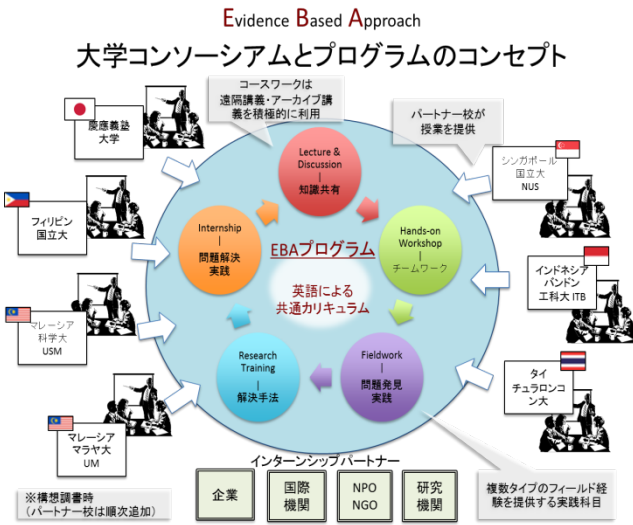
アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN共通課題である「健康・公衆衛生」「環境・エネルギー」「防災・セキュリティ」の分野において、課題先進国日本での知見を活かし、ASEAN地域の共通課題を、Resilience, Innovation and Sustainability に考慮して解決する、専門的なグローバル人材である“ASEAN EBA リーダー”を、日本とASEANが協力して育成する。

【構想の概要】

本構想におけるエビデンスベースドアプローチとは、様々な分野の課題解決プロセスにおいて、高度情報社会におけるビッグデータのグローバル基盤を活用し、データに基づいた事実分析と、その分析に基づいた正しい解決アプローチを設計し、実践する手法・考え方である。本構想では、EBAを中心に、専門教育とアプローチの実践力を、学部から、テーマとアプローチをクロスで教育する日・ASEAN7大学のコンソーシアムによる共同教育プログラムであるEBAコースを開発し、5年間で日・ASEAN180名の学生を受け入れ、プログラムの一環として、延べ420名の学生交流(派遣/受入)を実現する。



コンソーシアムの形成と大学間連携(左図)

-コンソーシアム参加大学は、実践力養成を重視したEBAコースを共同で構築し、それぞれの大学がその強みを生かした授業を相互に提供。

-ASEAN諸国の学生と日本の学生が、サイバーおよびフィジカルに、共に学ぶ環境を提供。特に、サイバー上のインタラクティブ講義配信ならびに研究指導と相互訪問を組み合わせるこの事業のアプローチ自体が、ASEANの広い地域にわたる課題に共同作業により取り組む方法の実技演習的な性格を有す。

-専門分野に関連した研究機関、国際機関、NPO/NGO、企業など、多様な形態のインターンシップ受入先をコンソーシアムパートナーとして組織化し、適切な組織における幅広い問題解決現場を提供。



第2回パートナー大学全体会議



オープンセミナー

平成25年度の成果(左図)

- 第2回パートナー大学全体会議を実施(ASEANより6大学6名参加)
- 外部評価委員会の発足
- 本学からコンソーシアム参加大学への授業配信開始
- フィールドワーク/インターンシップの派遣・受入実施
- インターン受入予定企業への広報および公式Facebookページ・公式Twitterでの情報発信開始
- コーディネーション会議、オープンセミナーの月例開催
- 学内における遠隔システムおよび授業環境の整備
- コンソーシアム参加大学との協定締結による連携強化
- 学内での学生受入に関わる制度新設(協定学生)
- 産学連携研究コンソーシアムの発足

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・カンボジア工科大学へのインターンシップ(5月、2名:メディアデザイン研究科)
- ・ガジャマダ大学へのフィールドワーク(8月、5名:理工学研究科)
- ・水俣フィールドワーク(8月、9名:総合政策学部4名、環境情報学部2名、政策・メディア研究科3名) ※下記の派遣学生数には含めず
- ・マンダレーコンピュータ大学へのインターンシップ(10月、3名:メディアデザイン研究科2名、政策・メディア研究科1名)
- ・カンボジア工科大学へのフィールドワーク(3月、3名:理工学研究科)
- ・インドネシアへのフィールドワーク(3月、1名:政策・メディア研究科)

○ 外国人留学生の受入れ

- ・水俣フィールドワーク(8月、14名:バンドン工科大学2名、フィリピン大学2名、マラヤ大学4名、マレーシア科学大学2名、ハノイ工科大学2名、チュロンコン大学2名)
- ・ウェザーニューズ社へのインターンシップ(1~2月、3名:ブラビジャヤ大学)
- ・SFC及びYAMAHAへのインターンシップ(2~5月、2名:マレーシア科学大学1名、ブラビジャヤ大学1名)



水俣フィールドワーク(左図) コンソーシアム参加大学から12名、本学から9名が参加し、熊本県水俣市で今後の環境保全や経済再生について、共に学習を行った

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	7	14	56	61	66
学生の受入	4	19	51	61	61

注) H24・H25は実績、H26以降は計画